

## アーク灯を使い世界初の電化灯台に

### セントキャサリン灯台 (イギリス)

今回紹介する灯台は、イングランド南岸部のポーツマスからフェリーで40分ほどのワイト島に立つ。豊かな自然と、ヨーロッパで最も恐竜の化石が見つかることでも知られる。島の南端に立つこの灯台は、絵本に描かれるお城のようだ。建築は1838年。当時は高さ40センチほどの背の高い灯台だったが、霧で光が遮られるため1875年に灯火の位置を13センチも下げた改築工事を行った。

このような霧の多い地域で頼りにされるのは、光の代わりに「音」で灯台の位置を知らせる霧笛だ。黒く塗られたラッパが塔から8つ突き出ているのがみえるだろうか。現在は使われていないが、1987年まで濃霧時は大きな音を放っていた。

この灯台は内部の見学をすることもできる（現在は休止中）。地元のボランティア団体による運営で、充実したガイドに定評がある。その際に聞いたのは、1882年にアーク灯により電化した「世界初の電化灯台」だということ。アーク灯とは、2本の炭素棒に電気を流し、放電させることで強い光を得るものだが、1901（明治34）年に「日本初の電化灯台」である尻屋崎灯台もアーク灯を使っていたことを思い出した。

ちなみに、この島の灯台の歴史は中世までさかのぼることができる。1300年代に礼拝堂が建てられ、その塔から光を放ち、危険な海域として警告をだしていたのだ。石造りの塔は今も健在。その姿がスパイス入れのように見えることから通称ペッパーポッドと呼ばれている＝写真左下。（つづく）

## …美しい石造りの塔

